

「双子姉妹の

インモラル色仕掛けトランス」

原案小説

## 【プロローグ】

主人公は25歳社会人3年目

そろそろ仕事と一人暮らしにも慣れてきて彼女が欲しいと思っていた、そんな時家の前に引越したトラックが止まった。

『あれ、誰か引越してくるのかな、変な人じゃなきゃいいけど』

そう思いながら仕事だったので会社へ向かう。

く帰宅く

『ふう、今日も疲れたな』

そんなことを思いながらマンションのエレベーターに乗る  
後ろから小柄な女の子と一緒に乗ってきた。

女の子『こ、こんばんわ』

恥ずかしそうに声を掛けてきた女の子は小柄で可愛い、  
挨拶もどことなく緊張しているような雰囲気だ。

そしてエレベーターの5階のボタンを押す、  
彼女は何も言わずに黙っていた。

5階のドアが開く

他の階も押されてないので「開」のボタンを押し、どうぞと声をかける。

「ありがとうございます」

そういつて彼女はそそくさと降りていった  
すぐについていくのもなんだか気まずい感じがしたので若干待ってからエレベーターを降りる

このマンションは隣との間に壁があるのだが、隣に入っていた。

『おかえりー』と小さく聞こえるもう一人の女性の声。

単身者用のマンションだから家族で済むには狭い。

二人暮らしだろうか？

昨日まで空き家だった隣の部屋、

今朝みた引越しのトラックは彼女たちだったのかもしれない。

『結構かわいかったな、、、』

そんなことを思いながら自室のドアを空けた。

く翌日く

今日は土曜日、会社は休みだ。

少し遅めの10時に起床し、たまった洗濯物を片づける。

幸いにも今日は晴れだからよく乾きそうだ

洗濯物を干しながらふと隣のベランダに目をやる

『昨日の子、可愛かったな』

そう思いながらなんだか期待してしまう

『ま、なんもないよな』

そんなこと考えながら家事を行い、

そろそろお昼の準備でもしようかと思っていたとき、

インターホンが鳴った

ピンポン

ドアモニターに映る二人の女性、昨日の子だが、二人いる？

これは妄想なのだろうかと思いながら通話を押す

リスナー『はい』

女の子『こんにちわ、昨日越してきたんでご挨拶にきました！』

元気がよく少し気が強そうな声、でもどこか緊張している感じ

リスナー『はい』

そそくさと玄関に向かいドアを開ける

女の子『こんにちわ昨日越してきました、これよかったら、、、

あっ、昨日エレベーターで一緒になりましたね！』

昨日のことを覚えていたようだ、

少し声が嬉しそうな気がするのは気のせいだろうか。  
そして、隣に同じ顔の子がもう一人、、、

『こんにちわ！これからよろしくお願いします』

比較するとおとなしい感じの声、  
ただ、同じ顔をしている。。。双子の姉妹か？

姉『えへへ、びっくりしました？双子なんです』

妹『卒業して二人で上京してきました！

全然この辺わからないから、これから仲良くしてくださいね』

姉『あたしがまゆで』

妹『あたしがみゆです！』

とても元気がいい声、自分が上京してきた時を思い出す。  
もちろん！そう思いながらお菓子を受け取る

姉『それじゃ、これからよろしくお願いします！』

頑張って使っているような敬語が初々しく感じる、  
何かを期待してしまう自分の心は躍っていた。

## 【まゆ（姉とのエッチ）】

今日は日曜、昨日と同様休みのため朝からダラダラしていたお昼になり弁当屋で弁当を戻って自室に戻るうとしたとき、同じ階に昨日の子がいた　どっちだろう

『あー！昨日のお隣さん！こんにちわ』

元気な声だ、姉のまゆちゃんだろうか

『どっちかわかってないでしょ？まゆです』

唐突なタメ口、ただしイヤな感じはしない。

ああまゆちゃんか、と思っていたときコンビニ袋に目を向けられた

『これからお昼ですか？』

ちょっと恥ずかしいと思いながらもうなずく

『よかったらうちで一緒に食べませんか？田舎から持ってきてる美味しい煮物があるんです』

一人ぶんの弁当袋で同棲はしていないだろうと気づかれたのだろう躊躇なく食事に誘われた。

いや、待てよ。いきなりか？そんなことあるか？と考えながらも、OKと返事をする

『やったー！じゃあちよつとだけお弁当ももらっちゃお』

そういつてハニかむ彼女、屈託のない可愛い笑顔だ。誘われるまま、彼女の家ドアを開けた

『今、私ひとりなんですよ〜みゆは学校の手続きにいつていて〜』

そうなんだ？と思いながらスリッパを履く

『えへへ、二人きりですね？なにか期待してます？』

『なーんちゃって〜』

そういつて彼女はまたハニかむ

どういうことだ？困惑しながらも部屋の中へと進む  
段ボールはあるが他にはベッドとテレビしかない。

『なんにもないんですよ！大体実家に置いてきちゃったし  
テーブルとベッドとテレビ！』

一人暮らしには若干広めの2DK、別々の部屋で寝ているようだ  
ダイニングも広くはないが狭くもない

『どうぞ！座ってください』

『はい、これおかあさん特性の煮物です！一緒に食べましょ』

とても安心する見た目、一口頬張ると懐かしい味がした  
母親の作る優しい味付けだ。

『えへへー お母さんの料理美味しいでしょ、あたしも頑張って作らなきゃ  
あつ、作ったら食べてくださいね もっていきますから』

他に知り合いがいないというのもあるだろうが、  
とつても距離が近い

友達が欲しいのだろうか、寂しいのだろうか  
地元のことなど、たわいもないことを話ながら食べ終える

『ごちそうさまでした！けっこうお弁当もらっちゃった  
でも美味しかったな！ あたしも今度買おうと  
コーヒー淹れるんでゆっくりしてってください』

コーヒーを飲みながらソファに座り話のつづきをする、  
よくある恋話が始まった

『お兄さん、彼女いるんですか？』

いないよ、と答えるはどこか嬉しそうに少し近寄ってきた

『えー！そうなんだ！』

またタメ口になってきた、どこか嬉しそうな表情

『どれくらい？欲しいと思わないんですか？』

よくある話、でもとても嬉しそうに更に近づいてくる

『あたし、実はわりとお兄さんのことタイプなんですよ  
エレベーターで会ったときからちょっと気にしてました  
同じ階の人なのかなーって』

『みゆも男の人の趣味似てるから取り合いになっちゃうかも（笑）』

少し妖艶な表情になってきた気がする

『ねえ、、、、キス、、、、しませんか？』

まっすぐ見つめる彼女の瞳は少し潤んでいる気がした。  
まさか、こんなことが。期待はしていたが少し挙動不審になる。  
それを察してOKと感じたのか、彼女は顔を近づけてきた。

チュッ

『えへへ、しちゃった！も一回も一回！』

チュッチュッチュ

繰り返しキスをする。

あまりに唐突な展開で頭が追いついていない、  
ただもう考えるのはやめにしようと思う

ディープキス

『んっ、、、ん、、、』

ソファにもたれかかり上から彼女が迫ってくる  
自分が押し倒されている恰好だ。

右耳舐め

『ねえ、あつくなくて、、、感じてる？耳も、、、すぎっ』

『あっ、、、！もう、こんなになってる』

股間に触れた彼女の身体を感じとった。

『ねえ、、しちやおつか（耳元でささやく）』

何をするのかは聞いていないが、何をするのかはわかっている  
返事はしていないがＴシャツの上に手が伸びてきた

乳首攻め（衣擦れ音）

『あはっ、ここの好きなんだ？もっとしてあげるね』

そういうと彼女はＴシャツをまくりあげ上半身を露出させた

乳首舐め

『まずは右から』

ぺろぺろぺろ（やさしく）

『あれ、、たってきてるっ』

ぺろぺろの間隔をあけて指でも触られているように

ぺろぺろ、、んちゅっ

『左も指で触りながら、、、』

ぺろぺろ、、

『じゃあ次は左ね』

位置逆に、ゝ上記繰り返しゝ

耳元ささやく

『どうしたの？びくびくしてるよ？感じてる？』

『乳首舐められるの好き？もっとな？乳首だけでいいの？』

彼女は耳元でささやくながら下腹部に手を伸ばす  
指でちんちんを触りながら

耳元であまく



『ほら、、、もう破裂しそう、、、』

『なんか先がしめってきたかな?』

『ねえ、、、ここ、、、どうしたいの?』

キス

『ねえ、、、ちゃんと言わないとわからないよ』

手のひらでダイレクトにちんちん触る

『あはっ、、、大きい、、、』

『じゃあ直接、、、』

パンツの中に手をしのばせる

『ああ、、、もうこんなに、、、』

『おちんちん、気持ちいいの?おちんちん大きくなってるよ?』

『じゃあ、脱がせちゃうね』

パンツを脱がす

『あー!でちゃった』

甘い声から元気な声になる。

『あはー元気だねえ、ねえおちんちんくん!』

いたずらに話しかける

『なんか、なめられたいっていつてるよ?いつてない?』

『なめられたいよねえ?』

そういうと彼女の顔は下のほうに下がっていく

ちゅ、、、ちゅ、、、

ここからまた甘い声

『おちんちん、、、好き』

『なめちゃうね、、、』

フェラ

ちゅ、、、んちゅ

笛をふくように竿からゆっくりと舐めだす

『ん、、、、硬い』

『啞えて、、、、っていつてる』

啞えながらフェラ

『ん、、、、んん』

じゅぽじゅぽ音

『啞えながら両手で乳首も触ってあげるね、、、、』

じゅぽじゅぽ音+ベッドのシートがこすれる衣擦れ

『んんゝ 口の中でもっと硬くなってきた』

『おちんちん、、、、喜んでるよ、、、、』

『ん、、、、あたしも気持ちよくなってきちゃう』

『もっと、、、、もっとおちんちんちょうだい、、、、』

★フェラ音 上記より激しく

いったんフェラ中断

『んゝ？なーにどうしたの？』

『おっぱい、、、、？』

『おっぱい舐めたいの？』

上部へ移動、顔の近くにおっぱい

『あは、、、、もう、、、、おっぱい見つめてる、、、、』

『舐めたいの？』

沈黙するリスナー

『なめたいんでしょう？だってもう顔がそういつてる（笑）（笑）』  
『はい、じゃあいいですよ、、、、どうぞ』

女の子の乳首なめ

スイッチオン

『あっ、っ、っ、ん、っ、っ、』

『ううん、っ、っ、もうそんなに舐めたかったの？』

ぺるぺる音

『ん、っ、っ、んっんっ』

『おっぱい気持ちいい、っ、っ、っ、』

『もっと舐めていいんだよ、っ、っ、もっと』

ぺるぺる音

『ん、っ、っ、ん、っ、っ、』

頭を撫でている

『ほら、もっと舐めて、っ、気持ちいいよ乳首気持ちいい』

『もっと、っ、っ、もっと、っ、っ、っ、』

ぺるぺる音

『んん、っ、っ、！もうダメあたしももっと舐めたい』

下腹部へ移動フェラ再開

フェラ音

『んっ、っ、んっ、っ、っ、』

『おちんちん、っ、っ、もっと、っ、っ、！』

『おちんちん、美味しい、っ、っ、もっとちょうだい』

彼女のスイッチも上記より更に激しく

★フェラ音

『ねえ、っ、目がとろんとしてきたよ、っ、っ、？』

『いっちゃいそうなの、っ、っ、？』

『まだダメ、っ、っ、！ダメだよ、っ、っ、！』

『キスしてあげるからガマンして、、、』

上部に移動、キス

『んっ、、、ん、、、好き、、、』

『こうしたいと思ってた、、、』

『ねえ、、、もっとキスして、、、』

キス音、激しく

『んー、、、ねえあたしのこと好き？』

『もっと、、、もっとして欲しい』

『おちんちんもこんなになってる、、、！』

手コキ +キスを継続

『んっ、、、ん』

『はあ、、、んっ！もう、、、激しいよ』

『でも、もっとして欲しい、、、』

『んっ、、、んっ、、、もっと、もっと舌出して』

キス(ぴちゃぴちゃと下を絡ませる)

+手コキを継続

『ねえ、、、好き、、、好きだよ、、、』

手コキ継続

『みゆより、、、あたしのほうが好きだよね？』

『同じ顔してるから間違えちゃダメだよ』

『あたしがキスしたら君は気持ちよくなっちゃうんだからね？』

はっ、、、は、、、はっ、、、

(吐息をあらく)

『好き、、、大好き、、、』

『好き、、、好き、、、好き、、、好きなの』

『もっと気持ちよくなって、、、』

『ほら、、、もう出そう』

手コキ継続一番激しくスピードもアップ

『あっ、っ、あっ、っ、もう出ちやいそうだよ?』

『さよ、さよ、おやすみ、さよ、さよ、さよ。』

『あつ、あつ、、、出そう、、、出して、、、！！！』

射精

『あー!!! いっぱい出ちゃった、うれしい、』

『たくさんでたねえ』

『ふふ、キレイにしてあげるね』

フエラ音

『キレイになった!』

『あは、ねえ気持ち良かった？』

『すっごく硬くなってたよ、あたしのことが好きでしょ？（笑）』

★ピロートーク

『ねえ、あたしのこと好き?』

好き、と答えるリスナー

『やったー!!! あたしも好きだよ』

キヌ音

『あたし、まゆだよ？妹も同じ顔してるから間違えないでよ まーゆ！』

『あたしがいないときにみゆと浮気したら許さないんだからね!』

『あたしだけをみて、あたしとだけキスするんだよ？わかった？』

うなずくりスナ―

『よし！あたしだけだからね』

キヌ音

## 【みゆ（妹とのエッチ）】

一週間たち、今日も日曜

先週はまゆと関わりを持ってから一度も会えていない。

エッチまでした仲ではあったが、連絡先を聞きそびれてしまっていた。

すぐに会えるかと思っていたけど、ちょうど仕事が忙しく一度も会えなかった。

『今日は会えるかな？』

そんなことを思いながら今日もお昼を買いに出た。

『あつ、、、こ、、、こんにちわ』

ドアを開けると少しおとなしめな声が聞こえた。

まゆ、、、？ではない、妹のみゆだ。

姉とは違っておとなしい声。ちょうどタイミングよく出てきたみたいだ、こんにちわ、そう返答すると互いにエレベーターへ向かった。

1階のボタンを押し、締まるドア

1階につきドアが空く、開ボタンを押しながらどうぞ、と目くばせする会釈をしながらみゆは先に出て行った。

同じ方向へ向かう、、、

ずっと同じ方向、まるで後を付けているようで少しきまずい、、、

、、、、、、、やっぱり同じ方向、どこへ行くんだろうと思いつきながら歩いていると、

目的の弁当屋に入ってしまった。

自分も後から入る。

『あつ、、、』

自分に気づき、あつと声をあげるみゆ。

自分は少しきまずいような顔でにこっと笑う

『ここ、姉に教えてもらったんです 美味しいですよね』

先週自分が教えたからだろう、妹にも教えてたようだ

『今日、姉いないんで自分の分だけ買いに来たんです』

今日、まゆはいないらしい  
お弁当を注文して、出来上がりを椅子で待つ。

『よく、来るんですか？』

まあ姉に教えたのは自分だからなと思いつつ、うなづく

『私たち全然この辺知らなくて、もっと色んな店知りたいんです  
知ってたら教えてくれませんか』

お弁当、レストラン、ドラッグストアなど一通りざっくりと話をしあげた

『ありがとうございます、この辺詳しいんですね、今度姉と行ってみます』

〇〇番と〇〇番のお客様へ

ちょうど同じタイミングでお弁当が出来たようだ。

互いに受け取って店を出る。

どうせ同じマンションで部屋番も知っているので二人でマンションに戻りだす、  
まるでカップルのような光景なので少しきまずい。

『同棲しているカップルみたいです』

同じことを考えていたようで先に言われてしまった、  
は、はは、と笑いながらそうだね、と返す。

『彼女とかいないんですか？』

いない、と答えると少し微笑したような顔で

『えー、そうなんです、わたしもです』

と嬉しそうに答える

『よかったら、うちで一緒に食べませんか？』

まさかのお誘い、まゆは自分のことを気に入ってくれてたようだけど、  
双子だから趣味も似るのかな？と思いつつOKと返事をする。

『やったー！じゃあ食べ終わった後にちょっと買い物付き合ってください  
さっき教えてもらったドラッグストアに行きたいんですけどちょっと一人じゃあ持ち切れない  
かと思ってて』

そういうことか、、、ちょっとがっかりしたような気分でみゆの部屋に入る。

見たことある部屋、そう先週まゆにも連れられてきていたから。  
ただ、先週に比べて少し部屋が片付いている。  
姉と共に整理したのだろう。

『散らかっているけど、そこに座ってくださいお茶出しますね』

ありがとう、そう言いながら腰をかけ、二人で食べ始める

『やっぱりここのお弁当美味しい、ですよね？』

普段おとなしいみゆが少しはしゃいだ感じで話しかけてくる、  
やはり女の子は美味しいものを食べると気分が高まるのだろう。  
じー、と自分のお弁当を見つめている、欲しいのだろうか。

『あ、あの、、、そのからあげひとつもらっていいですか？』

こくりとうなずく

『やったあ、じゃあ私のこれと交換しましょ』

にんじんをもらった、等価かどうかはわからないが交換した。

『あー、美味しかった！ちょっと休憩したら買い物にいきましょ』

短パンの部屋着で体育座りする彼女、  
ふっと目線が下に落ちてしまった。

『あ、、、』

目線に気づかれてしまったみたいだ  
もじもじとしながら恥ずかしそうに足を直した

『い、、、いまパンツみえちゃいました？』



姉とは違いおとなしめに聞いてくる、  
自分も少しあせあせとしていると

『もう、、、エッチ』

とすこし艶やかな表情で囁くようにさういつと、  
自分の隣に座ってきた。

『あはっ、、、ドキドキしてる？うれしい、、、』

控え目に言いながら身体を寄せて手を握ってきた

『あたし、好きかも、、、  
はじめて会ったときからちよつと気になってました』

『ねえ、、、しちゃいます、、、？』

思ったよりも積極的で少し驚く、しかしみゆの右手は下半身に伸びてきた。

『あっ、、、こんなに大きくなってる、、、』

『あたしのパンツでこんなに大きくしたんですかあ、、、？エッチ』  
図星だ、もうガマンできない

そう思うと同時に唇を奪われた

『ちゅっ、、、キス、、、しちゃった』

『ねえ、、、もっと、、、』

さつきまでとはうってかわって妖艶な表情、  
うるうるとした瞳で見つめてくる

『ん、、、ん、、、』

『んちゅっ、、、ちゅ、、、』

濃厚なディープキス、とろけてしまいそう

『もっと、、、っ、ん、、、れるれる』

『んっ、、、れるれるれる』

『耳、、、？好き？』

そういうと彼女は覆いかぶさるように右耳をくわえてきた

★耳に吐息

『ふ——っ、、、、、』

『あは、ぞくぞくしますっ。』

『ふ——っ、、、ふ——っ』

『食べちゃう、、、、』

★はむはむ音+耳中舐め（右） 10秒程度

『ふふ、、、、 体よじれてる、、、、 左も』

★はむはむ音+耳中舐め（左） 10秒程度

『こっちも感じちゃうの、、、、？じゃあもつと舐めたげるね』

★より激しい耳舐め 左右交互に10秒ずつ程度

『なんか目がとろん、、、となってる』

『んっ、、、、 おっぱいさわって、、、、』

右の胸に手を伸ばす。

『あっ、、、、、、 気持ちいい、、、、』

『もっと、、、、 乳首触って、、、、』

ノーブラのＴシャツの上から乳首を触る  
小さな乳首が段々と硬くなってきた。

『んっ、、、、、、 ん』

乳首を中心に指先でこねくりまわす

『あっ、、、、 あっ、、、、 直接触って、、、、』

腕を掴まれてＴシャツの下へと誘導される

『あっ、、、乳首、、、気持ちいい、、、』

『もっと、、、つまんで、、、』

『ああ、、、あっあっあっ、、、』

だんだんと声が大きくなり身体を振らせている。

服の中に入れた手を上げ、そのままＴシャツを脱がす。

『なめて、、、』

小さな乳首に下を這わせる

『あっ、、、気持ちいい、、、』

『おっぱい、、、好きですか、、、？』

『もっと、、、舐めてくださいもっと』

下で乳首を転がし、そのまま頬張る

『あっ、、、んっ、、、気持ちいい』

『あっ、、、あっ、、、あっ、、、あっ、、、』

『甘噛みして、、、』

『はあん、、、んっんっ、、、おっぱい気持ちいい、、、』

そのまま彼女を押し倒す

ソファで上になっている状態だ。

『キスして、、、んっ、、、』

★キス音４秒

『はっ、、、んはあっ、、、』

『ねえ、、、下も、、、触って、、、』

彼女の下腹部へと手を伸ばす

★喘ぎ５秒

『あっ、、、ん、、、』

『ん、、、ん、、、あっ、、、』

そして下着の上から敏感な部分へと指を滑らせる  
★喘ぎ5秒

『あっ、、、！ん、、、ん、、、そこ』  
『もっと、、、擦って、、、』  
『ん、、、気持ちいい、、脱がせて、、、』

彼女の下着を脱がし生まれたままの姿にさせた  
★衣擦れ音

『ん、、、恥ずかしい、、、』  
『やーだ、、、あんまり見ないで、、、』  
『あっ、、、ちよっ、、、ダメ、、、』

彼女の股の間に顔を沈める

『あっ、、、ちよっと、、、そんな舐めたら、、、だめ』  
『きたないよお、、、 あっあっ、、、』  
『あっ、、、あっ、、、イクっ、、、』  
『はあ、、はあ、、、、』  
『もうっ、、、』

とろんとした目でさつきよりも妖艶な表情

『お返ししちゃうから、、、！』

『えいっ！脱がせちゃう！』

そういうと彼女は私を全裸にさせた

『うわー、、、大きいねえ、、、』  
『すっごく硬くなってる』  
『あたしでこんなに大きくなってくれたの？嬉しい、、、』

そういうと下腹部に顔が近づいてくる

『舐められたい、、、？ 舐めちゃうよ、、、』

ぺろぺろぺろ

竿の先から舐め始めるみゆ、ちろちろと舌を動かす

★フェラ音 ※くわえず舐める 5秒程度

んちゅっ、、ぺろぺろ

『もつと硬くなってきた、、、、』

★フェラ音 ※くわえる

じゅぶじゅぶ、、

★啞えながら喋る

『んっ、、大きい、、お口に入りきらない、、、、  
じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ』

★フェラ音 ※高速で

『んっ、、んっ、、んっ、、んっ、、』

『あはっ、しちゃいましたね、、、、』

『気持ち良かったですか？』

こくりとうなずく

『うれしい、、、、またいちゃいちゃしたいな、、、、』

『また二人きりのときに遊びにきてくださいね』

『他の女の子としちゃイヤですからね、、、、！』

『あたしだけですよ！』

うんうん、とうなずきながらもまゆとのが頭をよぎる

『あー、なにか考えてる？』

『絶対他にもいそう、、、、怪しいなあ、、、、』

少し心が痛みながらも首を横に振る

『約束ですよ！』

★聞こえるか聞こえないくらい眩くように  
『、、、まゆより良かったかな、、、』

ん、、、？よく聞こえない

『あはっ、なんでもないですよ、じゃあまた楽しみにしてます』

そう言っとオレはドアを出ていった。

## 【まゆ、みゆ片方ずつとのペッティング】

今日は日曜日、特に予定もなくダラダラ過ごすつもりな昼下がり

ピンポーン

インターフォンになる、誰だろうとモニターを覗く

まゆと、みゆが二人で写っている、、、

まゆ&みゆ『こんにちわー！なにしてるんですかあ？一緒にお茶しません？』

そうしてオレは隣の家へと上がりこむ

まゆ『ふたりとも一緒に会うの久しぶりだね？』

みゆ『そうそう、引越してきたとき以来かなあ？』

まゆ『あつ、コーヒー切らしちゃってた、、、ごめーんみゆお願い出来る？』

みゆ『えーなんであたしが、、、』

まゆ『昨日あたしがおつかいいったじゃない』

みゆ『はいはい、いつてきますね』

買い物に出かけるみゆ

※二人ともソファに座っている

まゆ『二人きりになっちゃったね、、、？』

『この前の続き、、、する？』

妖艶な表情を浮かべぴったりと密着してきた

まゆ『はい、ちゅっ』

★キス音

まゆ『もうこんなに？あたしとしたかった？』

★キス音

まゆ『あたしだけなんだからね』  
まゆ『もっと、、、もっとして、、、』

★キス音

まゆ『んっ、、、おっぱい、、、触って、、、』  
『あっ、、、気持ちいい、、、』

『もっと、、、乳首、、、』  
『はっ、、、ん、、、あっ、、、』

『ねえ、、、みゆが帰ってくるまでにしちゃう？』  
『あはっ、、、しちゃおうよーえいっ』

★耳舐め音右 吐息

★耳舐め音左 吐息

『耳、、、好きなんですよ？』

★耳舐め音激しく

★キス

『あっ、、、おちんちんもうこんなに大きく、、、』

★衣擦れ

『舐めちゃうね、、、』

※位置下

★フェラ音

『んっ、、、やっぱり大きい、、、』

★フェラ音激しく

『んむ、、、んっ、、、んっ、、、』  
『じゅぷじゅぷじゅぷ』



『ん、、、もうガマン出来ないよ、、、いれて、、、』

ガチャガチャ バタン※ドアの開く音遠くから

みゆ『ただいまー!』※上記同じ位置

まゆ『、、、!-!』

『帰ってきちゃった、、、』

みゆ『ただいまーコーヒー買って来たよー!』

『あれ、、、?おねえちゃん?』

※あわてて服を着なおす、バタバタした音

SE::バタバタ、ガタンガタン!※下記セリフの間継続

『はやく、、、ととのえて!』※ささやくようにリスナーにいう

『チュッ、、、またあとでね』※ささやき

まゆ『あっ、、、おかえりー!!』※ちよつと焦った感じで

『はやかったね?』

みゆ『なんだお姉ちゃんこっちにいたの』※近づいてきた

『一緒にになしてたの?』

まゆ『あっ、、、ちよ、ちよつとそこに虫がいたから退治してもらったの』

『ねっ?』※リスナーに向けて

みゆ『えーやだ!どんな虫?ゴキブリとか、、、?』

まゆ『そ、、、そうそうゴキブリ!こんなに大きいやつ!』※あせった感じ

みゆ『ふーん、、、』※意味ありげに

まゆ『お姉ちゃんコーヒーいれてくるね』

みゆ『はい』

プルルルルル ※電話が鳴る音

まゆ『あら、なにかしら』

『はいもしもし、えっ、あっはいはい、い、いまからですか？』  
『はい、わかりました、』

みゆ『どうしたの？』

まゆ『ちょっと会社でトラブルがあっていなくちゃ、もうっ、』

みゆ『あら、、大変』

まゆ『じゃあ、ちょっといつてくるね』

みゆ『いつてらっしゃーい！』

※足音+ドアが空いて閉まる音

みゆ『お姉ちゃんたいへん、休日呼び出されるなんて、ねっ？』  
『ねっ？』※嬉しそうに

★キス音

『あはは、びっくりした？ねえ、ちゅーして』

★キス音

『んっ、、こうしたかった、もっ』

★キス音激しく

『ううん、、みゆだけのものだからねちゅっ』

★キス音

『お姉ちゃんもいなくなったし、しちゃうっ？』※嬉しそうに  
『えいっ！』※抱きつき

『乳首、、好きだよね？』

★乳首舐め 左右

『ぺろぺろぺろ、、、ちゅっ、、、』  
『あはっ、、、感じてる、、、』

★乳首舐め

『んー、ほら逃げないの』

★乳首舐め

『んっ、、、ん』  
『あたしのも、、、舐めて』

※衣擦れ音 胸を出している

『あっ、、、気持ちいい、、、』  
『あっ、、、あっ、、、』

『おっぱい、、、好き？ もっと舐めていいんだよっ』

★喘ぎ声

『あっ、、、あっ、、、あっ』  
『もう、、、ダメ、、、欲しくなっちゃった、、、脱がせちゃお、、、』

※衣擦れ音 リスナーのズボンを卸す

『やっぱり大きい、、、なめてもいい？』

★フェラ音

『んっ、、、？』※ちよつと何かに気づいたような感じで  
『んむっ、んむ、、、』※上記は関係なく

★フェラ音

『なに考えてるの？この前より大きい、、、』  
『あたしにいれたい、、、？』

★フェラ音

『んっんっ、、、、、』

『ダメ、、もう我慢できない、、、、いれて』

ガチャガチャ バタン※ドアの開く音遠くから

まゆ『ただいま〜!』※遠くから

みゆ『お、、お姉ちゃん? 早くない は、はやく直して!』

※あわてて服を着なおす、バタバタした音

まゆ『ただいま〜 みゆー?』※遠くから

みゆ『あつ! やば、、、、! こっちくる、、、、』

パタパタパタ※足音が近づいてくる

まゆ『みゆー? あつ、、、、!』※着崩れた感じの二人を見つける

みゆ『お、、、、お姉ちゃん、、、、!』※バレた感じ

まゆ『あらー? どうしたの二人ともなんか服が脱げかけただけど?』

みゆ『あつ、、、、あーほらちよっとお風呂にゴキブリが出て!』

『ぬ、、濡れちゃうでしょ?』

まゆ『またゴキブリ、、、、? 濡れちゃうってどういうことよ?』

みゆ『え、、、、えーと、、、、』

まゆ『ちよっと! あたしに黙ってみゆともエッチなことしてたんですよ!』

みゆ『えっ、、、、バ、、、、バレちゃったし、、、、』

『お、、お姉ちゃんも、、、、! ?』

まゆ『あたしだけって言ったでしょ、もうっ!』

みゆ『あ、、あたしだってあたしだけだっていった』

※少し沈黙

まゆ・みゆ『ちよっとどついうことよ!』

※少し沈黙

みゆ『あーあ、、実はさっきちょっとお姉ちゃんの匂いしたんだよね』  
『やっぱりなーって』

まゆ『もうっ、、姉妹で同じ人好きになっちゃうなんて、、』

みゆ『でも、あたしのほうが好きだよね？』

まゆ『なにいつてるの、あたしに決まってるじゃない！』

みゆ『そんなことないよ！！あたし』

まゆ『あたしよー！』

まゆ・みゆ『どっちか決めてよね！』

## 【まゆ、みゆとのエッチ】

まゆ『へー、みゆともしてたんだ〜』  
みゆ『へー、まゆともしてたんだ〜』

まゆ、みゆ『もうっ、ゝゝゝ、ゝゝゝ』

まゆ『あたしのほうが好きだよね?』  
みゆ『あたしのほうでしょ?』

まゆ、みゆ『あたしのほうだよね?』

まゆ『もう!えいつ』

★衣擦れ＋押し倒される音

まゆ『ちゅ』

★キス音 短く

みゆ『あたしと! ちゅ』

★キス音 短く

まゆ『あたしと!』  
みゆ『あたしと!』

★キス音 両方から長めに

みゆ『乳首も好きだもんね?』

★上部キス音＋胸あたり乳首舐め音

みゆ『交代!』  
まゆ『えー、もうしょうがないなあ、ゝゝゝ』

★上部キス音左右逆＋乳首舐め左右逆

まゆ『んふっ、ゝゝゝ、感じてきてる?姉妹にこんなことされて』

みゆ『選べないんなら、、、両方でもいいんだよ』  
まゆ、『みゆ』もつと、、、もつとしよう』

まゆ『おちんちん、、、こんなになってる、、、』  
みゆ『わぁ、、、前より大きいんじゃない？』

まゆ『じゃああたしが先に、、、』  
みゆ『えーずるいし、、、』

★左キス音(みゆ) + 右下フェラ音(まゆ)  
まゆ『んっ、、、ん、、、大きい』  
みゆ『あたしとはちゅーしょーね』

みゆ『んっ、、、好き』  
まゆ『んっんむ、、、ぺろぺろ』

まゆ『あたしもちゅー！』  
みゆ『じゃああたしがおちんちんねっ』

★右キス音(まゆ) + 左下フェラ音(みゆ)

まゆ『んっ、、、好き、、、好き』  
みゆ『んむんむ、、、硬い、、、はやく、、、欲しくなっちゃう』

まゆ『あたしも、おちんちん舐めたい、、、』

★右下フェラ音(まゆ) + 左下フェラ音(みゆ)

★長め、ダブルで

まゆ『ねえ、、、もういれて、、、』

みゆ『やだ、、、あたしのほうが先』

まゆ『ねえ、、、いれて』

みゆ『あたしだよね、、、いれて、、、後ろから、、、』

まゆ、『みゆ』いれて、、、』

★まゆを選ぶ

★挿入音 バック 正面

まゆ『あつつつつ、、、入ってくる、、、うれしい』  
みゆ『もうっ、、、あたしだって、、、』

★右耳舐め音＋正面バックからの挿入音 以下セリフ時継続

まゆ『あっあっあっ、、、』  
みゆ『んむ、、、あむあむ、、、』

★右耳舐め音＋正面バックからの挿入音 以下セリフ時継続

まゆ『あ、、、いくいく、、、いく、、、！』  
『はあっ、、、はっはっ、、、』

みゆ『はい次はわたし！はやくはやく』  
『いれて、、、』  
『あっ、、、すごい』

★挿入音 バック 正面

まゆ『はっ、、、はっ、、、んあたしもなめりゅ、、、』 ＊とろんとした感じ

★左耳舐め音＋正面バックからの挿入音 以下セリフ時継続

みゆ『あっ、、、あっ、、、あっ、、、』  
まゆ『あむあむ、、、』

★左耳舐め音＋正面バックからの挿入音 以下セリフ時継続

みゆ『あっ、、、あたしもっ、、、』  
『い、、、いくいく、、、いくー』  
『はっ、、、はあはあ、、、すごい、、、』

まゆ『ちゅー』

★ほっぺキス音 左

みゆ『ちゅーう、、、』

★ほっぺキス音 右



まゆ、みゆ『ちゅ』

★ほっぺキス音『ファンダム』 左右

★耳舐め音 左右

まゆ『あれ、、、とろんとしてきてるよ』

みゆ『あたしたちに耳犯されて気持ちいいの?』

まゆ『次はどっちにいてくれるの、、、?』

みゆ『ねえ、、、次はどっち、、、? ねえ、、、どっちもしたいんでしょ、、、?』

★みゆを選ぶ 正常位で挿入

みゆ『あつ、、、また、はいつた、、、あつ!、、、』

★エッチ音

まゆ『あつ、、、みゆ、、、ずるい、、、』

『やだ、、、あたしも、、、したい、、、』

★まゆ オナニー喘ぎ 右

★みゆ エッチ喘ぎ 正面

★ピストン音 以下セリフ時継続

まゆ『あつ、、、あつ、、、あたしも、、、いれてほしい』

『あん、、、やだ、、、あたしも、、、あたしも!!』

みゆ『あつ、あつ、あつ、、、あつ』

『あつ、、、もう、、、いきそう、、、』

『んっ、、、一緒に、、、一緒に、いこっ、、、』

まゆ『んっ、、、やだ、、、あたしは、、、あたしも入れて欲しい』

『いれて、、、いれて欲しいのに、、、あつあつ』※オナニー継続中

みゆ『あつ、、、いく、、、いく、、、一緒に』

まゆ『あたしも、、、もう、、、いっちゃう、、、』

まゆ、みゆ『いくっ、、、!』

★リスナー射精

みゆ 『はっ、、、、、はぁ、、、、あっ、、、、』  
『中に、、、、出てる、、、、こんなに、、、、』  
『いっぱい、、、、』

まゆ 『はっ、、、、あ、、、、』  
『ずるい、、、、みゆ、、、、ばっか、、あっ、、、、』  
『あたしも、、、、中に、、、、欲しい、、、、』  
『まだ、、、、できるよね、、、、？もっと、、、、したい』

## 【ダブル2回戦目】

まゆ『みゆばつかずるい！次はあたしだよね』

みゆ『次もあたしに決まってるじゃん、あたしのほうが好きだもんね？』

まゆ『やーだ！』

★手コキ 左右からセリフ まゆ左 みゆ右

★左右から交互のような感じ

まゆ『さっき出したのにもうこんなに』

みゆ『あたしのほうが好きだもんね』

まゆ『あたしよね』

みゆ『あたし』

まゆ『あたしのほうが好きだもん』

みゆ『あたしのほうが好きよ』

まゆ『好き、、、』

みゆ『好き、、、』

まゆ『大好き、、、』

みゆ『あたしだけ見て、、、』

★左右から交互のような感じ

まゆ『わたし！ほら！いれて、、、！』

みゆ『えー、もうわかったよ、、、』

★挿入 まゆ 正面

まゆ『あつ、、、嬉しい、、、入ってきた、、、』

『はっ、、、あつ、、、もっと！もっとして！』

みゆ『んー！ あたしもつかいしたくなっちゃった、、、』

★みゆ オナニー喘ぎ 左 ※さつきとは逆

★まゆ 正面喘ぎ 正常位

まゆ『あっあっあ、、、』

みゆ『あつ、、、わたしも、、、もっと、もっとして欲しい』

まゆ『はん、、、あっあつ、、、気持ち良くなって、、、もっと激しく』

みゆ『んっんっ、、、手止まらない、、、気持ちいい、、、』

★みゆ オナニー喘ぎ 左 ※さつきとは逆

★まゆ 正面喘ぎ 正常位

みゆ『あっ、、、いきそう、、、やっぱりあたしも入れてよ!!』

★みゆも正面に まゆ正常位 みゆバックのサンドの形に

みゆ『ねえ、いれていれて、、、欲しい、、、』

まゆ『みゆ、、、ずるいよお、、、もう、、、!!』

★みゆに挿入

みゆ『あっ、、、!あっあっあっあっ、、、!』

『もっともっと、、、』

まゆ『ずるい、、、!あたし!』

★まゆに挿入

まゆ『あっあっあっ、、、』

みゆ『あーんもうっ、、、もっと、、、』

★以下、まゆ、みゆ交互に挿入 正面

まゆ『最後はわたし、、、!』

★ラスト、まゆに挿入

まゆ『あっ、、、あっ、、、』

『いく、、、いきそう、、、一緒に、、、』

『ねえ、、、中に、、、中に出して、、、』

『いく、、、出して、、、』

★リスナー射精

まゆ『はっはっ、、、あ、、、すごい、、、いつぱい、、、』

『中で、、、まだビクビクしてる、、、』

『ん、、、きもちい、、、』

みゆ『あたしがキレイにしてあげる、、、』

★フェラ音（お掃除）

みゆ『んっ、っ、』

みゆ『もうっ、っ、二人としちゃった、っ、』  
『で、っ、どっちが好きなの？』

まゆ『そうよ！どっちが好きなの？』

まゆ、みゆ『ねえねえ！』

みゆ『え、っ、？決められない？』

まゆ『どうゆこと！』

まゆ『もうっ、っ、っ、っ、！じゃあ、これから決めていこうか』

まゆ、みゆ『これからもよろしくねっ』

## 【3Pトラック（ヌキ特化）】

まゆ、みゆ『じゃあ両耳責めてあげる』

★耳舐め 左右から まゆ左 みゆ右

まゆ『うふ、、、感じてる?』

みゆ『ねー、感じてるよね?』

★耳舐め 左右から まゆ左 みゆ右

まゆ『じゃあ、私は乳首も、、、』

★耳舐め+乳首舐め 左乳首 右耳舐め

みゆ『きもちい?』

『おちんちん、もうこんなになってるよ?』

『なめてあげるね、、、』

★フェラ+乳首舐め 左乳首 正面下フェラ

まゆ『あはっ、、、乳首もおちんちんも、、、』

『気持ちいいねえ?うれしいねえ?』

みゆ『ん、、、スゴク硬い、、、』

『もう、、、どっちで感じてるの?両方?』

★フェラ+乳首舐め 左乳首 正面下フェラ

まゆ『ねえ、、、ちゅっ』

★上キス音 下フェラ音

まゆ『んっ、、、ん』

みゆ『もうわたし、、、ガマンできないの、いれて、、、?』

★上キス音 下挿入音 バック 喘ぎ

みゆ『あっ、あっ、あー!』

まゆ『おちんちん入って気持ちいいねえ、、、?』

※キス音正面固定 以下位置指定正面※

★上キス音左 下挿入音 バック 喘ぎ

まゆ『はい、交代!』

★上キス音右 下挿入音 バック 喘ぎ

まゆ『あつ、、あつ、、大きい、、もつと』

みゆ『まゆばかりやだ、、もつとあたしをみてよ、、んっ、、』

★上キス音右 下挿入音 バック 喘ぎ

まゆ『あつ、、あ、、』

みゆ『ねえ、、気持ちいい、、?もつと、、もつと』

★上キス音+言葉責め右 下挿入音 バック 喘ぎ

みゆ『ほら、もつともつとついて』

『気持ちいいでしょ?まゆもいっぱい感じてるよ?』

『いっちゃいそう?だめ、、まだ、、だめだよ』

『次はあたしに入れて』

★上キス音+言葉責め左 下挿入音 バック 喘ぎ

まゆ『んっ、、みゆはどう、、?あたしのよりいいの?』

『もうっ、、あたしのほうがいいに決まってるけど、、』

『みゆ、、気持ちよさそう』

『ほら、、もつともつととしてあげて、、』

★上キス音+言葉責め左 下挿入音 バック 喘ぎ

※ここから入れ替わり?のようなセリフ

まゆ『んふっ、、どっちがまゆかみゆかわかってる、、?』

『あたしがまゆ、、?』

★キス音

まゆ『んっ、、、ほら、、、どっち、、、まゆだと思っ?』  
『交代ね、、、』

★上キス音＋言葉責め右 下挿入音 バック 喘ぎ

みゆ『ちゅっ、、どっち? あたしがみゆ?』  
『ん、、、?ふふ、、、あたしがみゆだよな?ほらちゅーでわかるでしょ?』  
『みゆ、、、?、、、かなあ?』※意味ありげに  
『もっど、、、ちゅ』

★上キス音＋言葉責め左 下挿入音 バック 喘ぎ

みゆ『あっ、、、もういきそう?』  
まゆ『うん、、きて、、、中にだして、、、』  
みゆ『まゆの中かな、、、?それともみゆ、、、?』  
まゆ『あっ、あっあっあっ、、、!出して、、、!出して!』

★射精

まゆ『あっ、、、中でいつぱい、、、』  
みゆ『気持ちよさそうな顔、、、してる、、、』

まゆ『今出したのはまゆ?みゆ?』  
みゆ『どっちなあ、、、?どっちだろうねえ、、、?』  
まゆ『わからない?』  
みゆ『わからないのかな?』

まゆ、みゆ『次はどっちとするのかな、、、?』